

【神奈川県大磯町】

Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用に係る計画

1. Ⅰ人Ⅰ台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

大磯町では、ICT 端末について小・中学校ともに多くの場面で活用をしている。ICT 端末を特別なものとして扱うのではなく、日常的に使う文房具として意識づけ、今後も利活用を推進する。

また ICT 端末を利用することで、学習に対して様々な障害がある児童生徒が、それぞれに合った方法で学習を進められている。特別支援教育だけでなく、学校のあらゆる場面で児童生徒が主体的に学びの方法を選択し、学習を進めていく姿を目指していきたい。

学習の場面では、個別最適化された学習から協同的な学びへつなぐツールとしての活用が期待される。プレゼンテーションソフトの活用のしやすさを生かし、様々な場面で児童生徒が ICT 端末を利活用した発表を経験することで、将来必要な能力の伸長を図っていく。

2. GIGA 第Ⅰ期の総括

令和6年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙によると、「5年生(1,2年生)のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対し、「週3回以上」と回答した児童生徒は、小学校で約83%、中学校では約95%となっており、非常に高い水準で日常的に利用していたことがわかった。

また、Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用に係る計画策定に向け、現在の利活用状況を把握するために、情報担当者向けに実施したアンケート調査から、Ⅰ人Ⅰ台端末を、日常的な授業だけでなく、ホームルームや委員会などの授業外でも積極的に活用できたといえる。加えて、「児童生徒による表現・発表場面での資料作成」にⅠ人Ⅰ台端末を活用していると回答した教職員が7割以上いたことから、表現・発表場面で多く活用されていたことも、成果としてあげられる。

多様な学びの場面での活用においては、オンライン授業の対応ができるようになったことで、希望する不登校の児童生徒等への支援を実施している事例も複数あり、多様化する学びの保証に対してアプローチすることができた。

3. Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用方策

(1) Ⅰ人Ⅰ台端末の積極的活用

活用率については、既に目標値を達成している。今後、更なる活用促進を目指すために以下の実施及び検討を進めていく。

・研修会について

町として導入している学習 e ポータルやグループウェアの使用方法等の研修会や情報担当者会での情報提供等を実施している。今後、教職員のニーズに合わせた研修会を計画していく予定である。

・デジタル教科書の利用について

令和7年度よりすべての教科において教師用デジタル教科書を導入する予定である。一部の教科ではすでに生徒用のデジタル教科書も使用されており、これらをより実践的に活用するために、電子黒板等の整備も検討を進めていく。

・その他

教職員に実施したアンケート調査結果より、フィルタリングソフトの導入によってセキュリティ対策を強化し、安全な環境の中での更なる活用促進を目指す。また、活用率が高い授業支援ソフトウェアは、継続して活用していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

当町では、GIGA1.0に先駆けて、授業支援ソフトウェアを全校に導入しており、現在も日常的に活用されている。さらに、令和6年1月から「Google Workspace」も導入したことで、授業での活用の幅を広げることを可能にしている。そのため、現行の授業支援ソフトウェアと「Google Workspace」を継続することで、より発展的な授業づくりを目指していく。

一方で、教職員向けのアンケート調査より、児童生徒が教科の学習を行うためのドリル教材のニーズが非常に高かったことが分かっている。個別最適な学びを充実させていくためにも、今後、ドリル教材の導入を検討していく。

(3) 学びの保障

GIGA第1期の総括より、一部の学びの保証に対する取り組みが行われている。その際、導入した授業支援ソフトウェアや「Google Workspace」が活用されていることが分かった。

一方で、学びの保証に対する取り組みに対し、「児童生徒の1人1台端末におけるリテラシー・スキルの不足」が課題として挙げられていたことから、セキュリティ対策の強化は急務であると考えられる。また、「専門的な知識を有する人材など、学校の支援体制の不足」も課題として多く挙げられていたため、町と連携して取り組みを検討していく。